

令和2年
1月28日(火)から
5月10日(日)まで※休館日：月曜日(祝日の時は翌日) 毎月25日(土・日を除く)
4/27(月)・5/7(木)は臨時開館

黎明館企画展

あの人
の幕末維新
家族への手紙調所広郷書状 妻もり他家族宛
弘化2(1845)年正月19日

〔意識〕

かえすがえすも、左門殿の病気が早く順調に回復し、この上ないことです。右へ竹下清右衛門・篠原玄心を付けておいたので、(左門の)道中は心配いりません。

その代わり拙者には迷惑千万です。今回の道中は医師なしとなり心細いことです。しかし、この頃はくしゃみも出ませんので、少しもご案じなさいませぬようお願いいたします。遠からざるうちに帰国し、元気な姿をお見せします。

調所広郷(七十才) 在大坂
左門(調所広郷嫡子・二十五才) 在江戸
もり(調所広郷室・四十九才) 在鹿児島

【時間】9時～18時(入場は17時30分まで)

【料金】常設展示と共通

一般…400円 (300円) 高校・大学生…250円 (150円) 小・中学生…150円 (80円)

※ ()内は20名以上の団体料金

※ 身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の提示のあった方とその介護者1名は免除

※ 県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒とその引率者については、教育課程に基づく活動として入館する場合、事前申請によって免除

※ 県内居住の70歳以上の方は無料(年齢・住所の確認できる書類の提示が必要)

※ 県内居住の18歳以下の方は、土・日・祝日に限り無料(年齢・住所の確認できる書類の提示が必要)

鹿児島県歴史資料センター

黎明館

3階企画展示室

あの人家族への手紙 幕末維新

メールや電話のない時代、遠隔地との唯一の連絡手段は手紙でした。また、郵便制度が整う以前は、送ることのできるタイミングも自由ではありませんでした。そのため、一通に込められた想いは現代のそれとは比較になりません。家族間の手紙であればさらに様々な感情にあふれています。

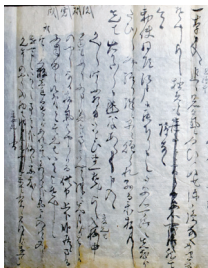
本企画展では、くすっとしたり、ほっこりしたり、ほろりとしたり、幕末維新期の家族への手紙そのものの魅力をご堪能いただくと共に、それがどのような歴史的背景のもとに綴られたのかを紹介します。また、「古文書は難しいから…」と感じられる多くの皆様のために、意識等を付けてわかりやすく展示します。

家族だけに見せる「あの人」の一面に触れ、新たな気づきを得ていただければ幸いです。

ここでは、その一部を紹介します。

※ 本文中の年齢は数え年です。

しまづ ひさみつ 島津久光



島津久光書状案

於治・於珍・於寛・於成宛
文久2年5月22日
(玉里島津家資料)

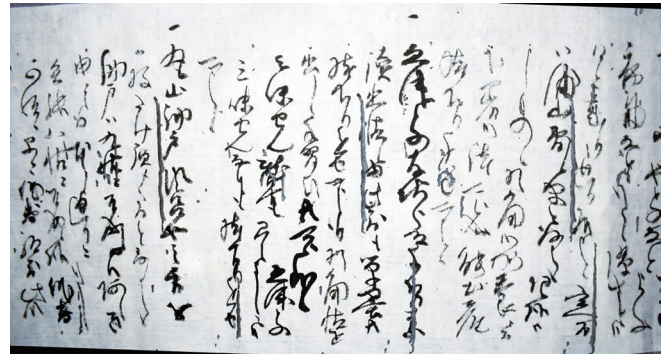
文久2(1862)年、久光(46歳)は中央政局への一歩を踏み出します。兵を率い上京し、さらに勅使を奉じ江戸へ赴き、幕政改革を迫りました。この書状案は、京から江戸へ出発した日に鹿児島島の娘達に宛てたものです。はしかのような病やまいの流行を案じるとともに、八女の於成(10歳)に対し、欲しがっていた人形を送ったが、あれでよかったか?気に入ったかどうか知らせてほしい旨が綴られ、父親としての一面がうかがえます。緊迫する政局とは対照的に映りますが、勅使派遣に至るまで多くの困難を乗り越えてきた久光にとって、旅の1日目はほっと一息つくような心持ちであったと考えられるかもしれません。

一方、鹿児島では、久光が案じていたやはり病が

猛威を振ります。鹿児島城二ノ丸の「日誌」(玉里島津家資料)によると、三女於珍(入来院公寛室・24歳)が7月3日に、四女於寛(喜入久博室・20歳)が同27日に相次いで死去。於成も罹患しました。二女於治(島津久静室・25歳)は夫を亡くしています。

中央政局に確かな存在感を示した久光でしたが、その影には深い悲しみがあったのです。

ずしよひろさと 調所広郷



調所広郷書状 妻もり他家族宛 弘化2(1845)年正月19日

藩の財政改革を成功に導いた家老の調所広郷(70歳)が、大坂から鹿児島に宛てた書状です。財政改革は軌道に乗り、前年に目標の50万両備蓄を達成しています。

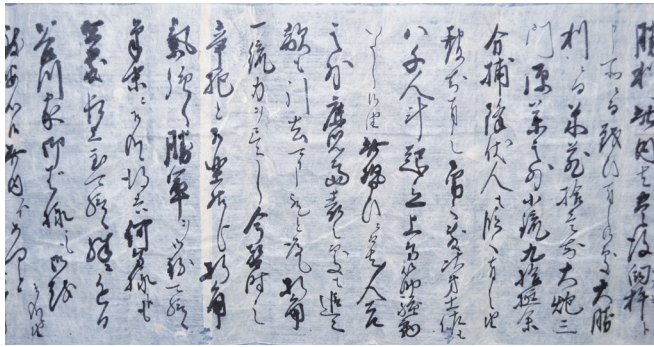
書状には、痛風を患う江戸の嫡男左門(25歳)に医者2名を付けたために、左門は回復するものの、調所には医者が付けられず、「迷惑千万」と綴られています。現代であれば「(笑)」と入る所でしょうか。直後に、くしゃみ一つしないので心配しないよう伝えています。調所の書状には独特のユーモアが混じることがあり、その人柄がうかがえます。畳の枚数が悪いと祟りをなすとして、急ぎ改善を求める箇所もあります。

調所の書く文字は個性的で、最も解読の難しい部類に入りますが、活字では伝えられない直筆の迫力をお感じ頂ければと思います。

かつら ひさたけ 桂久武

西南戦争のさなか、横川(現鹿児島県霧島市横川町)の桂(48歳)から日置郷(現鹿児島県日置市日吉町日置)の息子小吉(11歳)・九四郎(2歳)に宛てた書状です。

この頃、薩軍の本営は横川に置かれ、桂は募兵・



桂久武書状 桂小吉・九四郎宛

明治10(1877)年6月12日 個人蔵

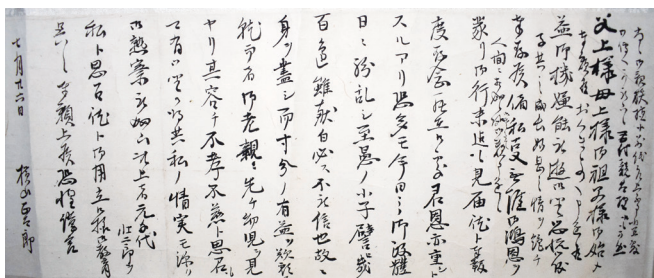
軍資金調達など兵站任務の指揮を執っていました。戦局は相当厳しいものでしたが、書状には豊後白杵で大勝利、土佐で8千人立ち上がるなどと記し、この調子であれば敵も退くだろうから勝利を待っていないと続いています。このうち白杵の勝利は6月1日のことで事実ですが、同9日に反撃を受け、その後撤退しています。土佐では拳兵の動きもありましたが、事前に察知され、拳兵には到りませんでした。この情報分析を桂が心から伝えたとすれば、電信を駆使し始めた政府軍との情報収集能力の差が明白にうかがえることとなりますが、あるいは子供達を不安にさせないための優しい嘘かもしれません。

この後、政府軍の総攻撃を受けた薩軍は、7月1日に横川から退却しています。



桂久武写真(個人蔵)

よこやまやすたけ 横山安武



横山安武書状 祖父・両親他家族宛

明治3(1870)年7月26日

横山(28歳)は初代文部大臣森有礼の実兄です。斉彬・久光の側に仕え、久光五男悦之助の輔導役を務めました。その後、明治3(1870)年4月、京都に出て陽明学を学びます。のち東京へ上り、同年7月27日、官の腐敗等を訴える建白書に征韓論反対の書を添え、これを竹に挟み集議院に捧げ、津軽藩邸門前で割腹して果てました。

この書状は家族へ宛てた遺書です。例えば自分が何百回建白しても容れられないので、身を尽くして歎願するとの内容です。息子の元千代(5歳)・壮二郎(3歳)の教育をくれぐれも頼むともあります。

この事件は多くの人々の心を打ち、各方面から多くの弔歌等が寄せられています。福昌寺墓地に建つ横山安武の顕彰碑文は西郷隆盛が誌したものです。



横山安武写真 明治3年5月撮影

その他、以下の人物を取り上げる予定です。

ありましんしち 有馬新七	ありむらじざえもん 有村次左衛門	ありむら 有村れん	おおくぼとしみち 大久保利通	おおやまつなよし 大山綱良
かわさきすけな 川崎祐名	こまつたてわき 小松帯刀	さいしよあつこ 税所敦子	しまづうずひこ 島津珍彦	しまづひさはる 島津久治
しまづただよし 島津忠義	しまづなりあきら 島津斉彬	しまづなりおき 島津斉興	しまづひさはる 島津久治	しまづひさはる 島津久治
たかきまさかぜ 高崎正風	たにむらまさたけ 谷村昌武	ちきいん 智鏡院	しまづひさはる 島津久治	しまづひさはる 島津久治
まつかたまさよし 松方正義	むらたしんぱち 村田新八	もりありのり 森有礼	しまづひさはる 島津久治	しまづひさはる 島津久治
もりやましんご 森山新五左衛門	よしはらしげとし 吉原重俊	他	しまづひさはる 島津久治	しまづひさはる 島津久治

○企画展解説講座(学芸講座を兼ねます)

「あの人の家族への手紙 幕末維新」

日時：令和2年2月15日(土)

13:30~15:00

会場：黎明館3階 講座室(80席)

講師：黎明館学芸専門員 崎山 健文

※ 聴講無料、事前申込不要、先着順

※ 講座終了後、企画展示室で展示解説を行います。その際は、常設展示団体入館料が必要です。

○展示解説

3/8(日), 4/11(土), 5/10(日)

13:30から45分程度

黎明館 ふるさと歴史講座

期日：令和元年9月7日(土)

「鹿児島美術・工芸史 —黎明館の展示をもとに—」

黎明館専門委員(元黎明館学芸課長)

山下 廣幸氏



はじめに

私は、この黎明館の仕事に昭和44年からおよそ50年携わっています。この年に「明治100年記念館建設調査室」という組織が県庁にできまして、それから14年間「どうい博物館をつくるか。どういものを展示するか、あるいは収蔵するか」ということに時間をかけられたことが黎明館の歴史を作るうえで良かったと今でも思っています。

常設展示と資料収集

黎明館の目的は、やはり郷土の歴史とか郷土の生活に関係する資料を集めて、それを見てもらい文化活動に寄与することです。だから、黎明館の本筋は常設展示ではないかと思うのです。昭和58年の開館以来、黎明館の美術・工芸の特色は、日本画、書、薩摩焼、薩摩刀、洋画、彫刻と、非常に幅広く収集して展示していることです。

まずは、日本画ですが、薩摩における歴史は、室町時代に、薩摩川内市高城出身の秋月という絵師が出たことが始まりです。その後、狩野派、円山四条派とか、あるいは文人画とかが、流行ってくるわけですが、薩摩で好まれた画風は、狩野派だと思ふのです。これは、武の国薩摩ということで、生活とか生き様に、「かっちりとした」狩野派の絵がマッチしたのではないかとこのように言われております。代表的な絵師は、木村探元ですね。

洋画では、黒田清輝の「赤き衣を着たる女」は、開館直前に収集した作品で、何か目玉になる作品はないかとようやく探し出して、購入した資料です。この絵は、大正元(明治45)年に発表された作品で、当時、夏目漱石からも高い評価を得ているものです。この絵を黎明館が所蔵した後、補修するために、X線を使った調査で肩の位置が、現在の絵と下に描かれている絵とずれているとわかりました。他に藤島武二の「蒙古の日の出」、和田英作の「富士(河口湖)」という作品

があつて、黎明館が誇れるものは、この三巨匠の作品3点だろうと思います。

書は、黎明館が持っている一番古い薩摩の書は、水戸光圀に仕えて、活躍した真幸正心という人の巻物です。それから琉球の書家で薩摩の人達にも影響を与えた鄭嘉訓や薩摩の代表的書家鮫島白鶴、川口雪篷がいます。また、同じ時代に活躍した文化人同士で、いわば文化サロンみたいな動きがあり、絵師が描き、書家が賛を入れている作品もあります。

彫刻では、安藤照「お下げ髪の少女」首像、中村晋也先生の「大久保利通」像、工芸作品では、常設展示場の入り口の一番上にかかっている彫金の帖佐美行先生の「天空への招待」、幕末には、川畑道仁が作った鋳物のカボチャ形の鉄瓶などがありますね。

薩摩焼は、豎野系や苗代川系、龍門司系、西餅田、平佐に加えて種子島系というふうに系統で考えると、特徴が分かると思います。収集品では、岡田コレクションと高橋コレクションという資料を中心にして、色々収集して特別展も数回開催しています。

日本刀では、鹿児島県唯一の国宝「国宗」を預かっています。国宗は、鎌倉時代の刀工で備前の国から、相州(鎌倉)に呼ばれて活躍した刀工ですが、非常に数奇な運命をたどった刀です。戦後アメリカに渡り、今は、鹿児島に帰ってきています。それから、薩摩新刀期の代表、玉置安代と宮原正清、他に島津家伝来の名刀で長光という刀も黎明館が収蔵しています。

鎧は、国の重要文化財が3点、伝わっており、黎明館に保管されています。

結びに

このように黎明館の常設展示には、何度も足を運んでいただくと、こういう見方があるんだなと新しい発見があるのではないかと思います。

(文責 学芸課)

苗代川初代庄屋役 朴平意家の系譜

朴平意は、文禄・慶長の役（1592～98）によって薩摩に連行された朝鮮陶工の一人である。陶工等の集住地となった苗代川初の庄屋役に任ぜられ、そのリーダーとして薩摩焼という国産品の開発を率いた重要人物である。それゆえ後世においては、朴平意に連なる家筋を主張することで、権威付けを行う傾向も散見される。そこで、現在確認できている資料を基に、朴平意家の系譜についてまとめてみたい。

朴平意は朝鮮半島に生まれ、慶長3（1598）年に渡来、藩による苗代川保護が始まると同時に庄屋役となり、切米四石と屋敷を付与され、晩年までその任にあった。平意が寛永元（1624）年に65歳で亡くなると⁽¹⁾、息子の貞用が跡を継ぐが、この世代交代と重なる寛永年間（1624～1644）の初め頃までに、領内で白色原料が発見され、白薩摩が誕生した。この出来事は、その後の薩摩焼の方向性を決める画期となった。原料の探索は藩命によるもので、発見者は平意説と貞用説の二説があるが⁽²⁾、ともあれ、白薩摩は朴平意家の功績により誕生したと言える。

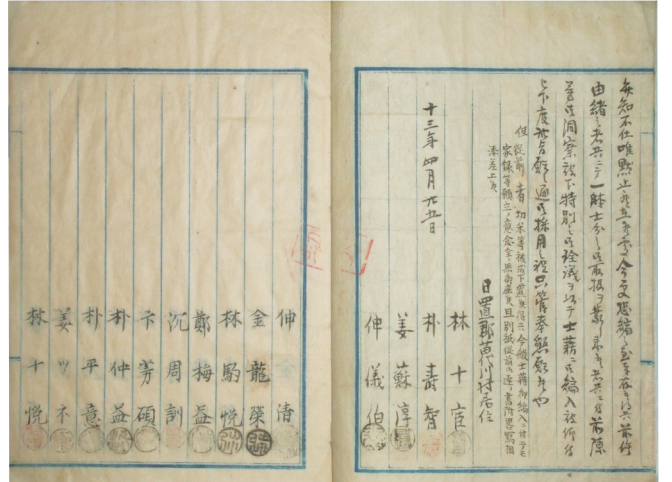
文政6（1823）年には、藩庁から朴平意、貞用親子について照会があり、その回答書を主取、いわゆる陶工等の責任者を務めていた子孫の朴平意が提出している⁽³⁾。回答書には、平意の息子清左衛門が庄屋役を継ぐに当たり、貞用の名を拝領したとある。和名化が進む中、恩賞として朝鮮名を意識した名が与えられたことがうかがえる⁽⁴⁾。

また、初代から200年を隔てた子孫が同じ名を名乗っている点は興味深い。明治18（1885）年に子孫がまとめた初代の履歴書によれば、それは偶然ではなかった。この子孫も平意と名乗っており、先祖代々、平意の名を拝領し、主取を務めてきたと記されている⁽⁵⁾。史料の性格を考慮する必要があるが、少なくとも、文政期及び明治期の子孫が平意を名乗ったことは間違いなく、名が踏襲された可能性が高い。当館に所蔵されている、底部に「朴平意八十二才而書之」と記された茶碗も、後世の代が平意と名乗ったことを示唆するものである（写真1）。

ところで、廃藩置県により平民に位置づけられた苗代川住民は、2度に渡り連名で土族への編入を願



【写真1】染付柳絵和歌茶碗銘「朴平意八十二才而書之」
黎明館蔵



【写真2】土族編入之願 明治13年 沈壽官窯蔵

い出た。その折の書類の控えと考えられる「土族編入之願」には、明治13年に364名、同18年に339名が連署している（写真2）。このどちらにも朴平意の名があり、前述の履歴書を記した平意と同一人物と考えられる。少数ながら女性の名もあり、親や兄弟も署名した可能性があるが、中でも朴姓は多く、明治13年では83名が確認できる。朴平意家の系譜を考える場合、直系や傍系の人々の名が含まれる可能性はあるものの、少なくとも継嗣の家筋は、ここに署名した朴平意家と判断できる。

この他、平意とともに署名のある、家筋の異なる朴姓の人々には、苗代川村長を務めた岩崎景示の父朴応醇や東郷茂徳の祖父朴伊駒、朝鮮語通事の家柄である朴林達（朴求成）、あるいは慶応3（1867）年のパリ万博に薩摩焼を出品した朴正官の息子朴利官や朴義通らがいる。

明治期の朴平意は、幼少より眼病を患い陶器製造業を中絶したと自ら履歴書に記している。それ以降の系譜については、現段階では不明である。

- (1) 「朴平意履歴書」(「薩陶製蒐録」所収)
- (2) 「先年朝鮮より被召渡留帳」、「立野井苗代川焼物由来記」他
- (3) 「立野井苗代川焼物由来記」
- (4) 後に苗代川の人々は、藩命により朝鮮名を名乗ることとなる。
- (5) 前掲(1)及び「鹿児島外四郡長答申書」(「薩陶製蒐録」所収)

(主任学芸専門員 深港 恭子)

今年度刊行の県史料紹介

『鹿児島県史料』100冊刊行目前

昨年度黎明館調査史料室は、前身の「県維新史料編さん所」を含めて、創設50年目を迎えました。これまで刊行してきた『鹿児島県史料』は、今回紹介する2冊を加えて100冊を数えます。

以下、3月刊行予定の『鹿児島県史料』（2冊）を御紹介します。

『旧記雑録拾遺 地誌備考七』

「地誌備考」は、旧薩摩藩領の地誌を郡郷ごとに編さんしたもので、地域に関する文書・系図・記録等が網羅されています。明治前期、伊地知季通らの手によるものです。地域ごとに整理されているため、郷土の歴史を深く掘り下げたい方には必携のシリーズです。本年度刊行の『地誌備考七』には、以下の地域・史料を収めました。

(1) 「大隅郡上」

牛根郷 垂水郷 小根占郷

(2) 「大隅郡下」

大根占郷 田代郷 佐多郷 桜島郷

(3) 「肝属郡」

内之浦郷 高屋御陵来由并吟味書 こうやま 高山郷

串良郷 地理誌(高山郷) 鹿屋郷

始良郷 大始良郷 花岡郷 高隈郷

百引郷 隅旅漫筆 百引郷地理誌 新城郷

(4) 「熊毛・こむ 馭謨・大島 三郡」

熊毛郡 馭謨郡 大島郡

※ いずれも東京大学史料編纂所蔵 へんさんじょ

上記の該当地域に関する武家の系図や支配関係を記した文書、また、寺社・名勝・旧跡についてまとめた文書等を掲載しています。

特に、「大隅郡」及び「肝属郡」の記載からは、南北朝期から戦国期にかけての島津氏と肝付氏など在地領主との抗争の様子が読み取れ、中世南九州の争乱の実相を窺い知る事ができます。

また、「熊毛郡」の内容には、鉄砲伝来の際に行われた交渉の様子などが記載されています。

『名越時敏史料九』

本年度は一昨年刊行した『名越時敏史料』シリーズに戻ります。「群書輯録」「群書合輯」とともに名越時敏が書写した史料群で、それを島津家編輯所が再度写したのになります(「群書輯録」には名越の自筆部分があります)。

(1) 「群書輯録 卷二十三」

文久元(1861)年から同3(1863)年までの藩から出された通達が収められています。

(2) 「群書輯録 卷二十六」

戊辰戦争に関わる「内藤領延岡より伺書」「大坂ニテ徳川氏外藩江廻檄文」「薩藩奸党之者共罪状之事」「徳川慶喜滅亡之七事」「新版チヨボクレ」など様々な史料が収録されています。

(3) 「群書輯録 卷二十九」

慶応3(1867)年7月から明治元(1868)年閏4月までの藩から出された、「京師不容易形勢ニ付仰出」「慶喜將軍辞職之事」「伏見鳥羽戦争仰出」「忠魂之靈社御建立ニ付志次第寄進仰出之事」等の通達が収められています。

(4) 「群書合輯」

一には、「島津家大概」「御家代々記」「大御隠居(島津重豪)様御続御繁昌之次第」「大玄公(島津綱貴)御以来略御系図」「御家之事幕府江差出せし留」「伊作家由緒」「御元祖以来御居城覚書」を収めます。

二には、「伊藤家之事并天正十五年高城合戦等古老聞書」「島原軍記」「木崎原合戦聞書白島山住持著述」「木崎原御一戦参考向井達夫撰」「惟新(島津義弘)様関ヶ原御退陳之御供人数」「橋口対馬覚書」「連長坊自記」を収めます。

三には、「新納弥右衛門口上覚書」「東郷藤兵衛覚書」「木崎原御合戦一件飯野あつかい 嘯より申出」を収めます。

四には、「貴久公より綱貴公御五代御家老人名」「義弘公外城より被召寄御談合之人数」「自御一門至奇合新古高帳」「税法并津口改法」を収めています。

島津家代々の歴史や木崎原合戦等が江戸時代末期になっても書き写されており、「中世」がこの時期にも依然として、薩摩藩の武士にとって重要なアイデンティティーの一つであったことがわかります。

※ いずれも東京大学史料編纂所蔵

常設展示のみどころ62

天正14(1586)年(カ)6月16日付

島津家久書状〔入田(義実)殿宛〕

1 「永吉島津家文書」中の島津家久書状

黎明館に寄託されている「永吉島津家文書」のなかに、島津家久から豊後の国衆・入田氏に出された書状が2通あります(翻刻は『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺家わけ九』に収録)。天正13(1585)年と推定される12月9日付書状(史料1、「永吉島津家文書」91号)と、天正14年と推定される6月16日付書状(史料2、「同」90号、下に写真掲載)です。常設展示1階「中世のかごしま」コーナーでは、史料2の複製を展示しています。

2 家久と島津氏の勢力拡大

家久は、島津貴久の四男で、いわゆる島津四兄弟の末弟になります。永禄4(1561)年の大隅廻城の戦いで初陣を飾ると、同12年の菱刈氏との大口戸神尾の戦いや、天正6年の豊後・大友氏との高城・耳川合戦で軍功を挙げ、翌7年には日向佐土原城主となりました。この間、島津氏重臣・樺山善久の娘を室に迎え、嫡男・豊久が誕生しています。島津氏は、その後も、肥後南部の相良氏や、肥前の龍造寺氏を破り、さらに、天正13年閏8月に肥後の阿蘇氏を降すなど九州全土を席捲します。

3 家久による「取次」

このような状況のなか、一度は島津氏と和睦した大友氏が、島津氏領国との境目の国衆を調略しようとしていたことが発覚します。大友氏方の動きを察知した島津氏家中では、豊後攻めを主張する声が強まり、緊張が高まりますが、太守・義久は慎重な姿勢を崩しませんでした。

一方、豊後攻めを強く主張したのが家久です。家久は、大友氏との関係が悪化し、島津氏への従属を申し出てきた大友氏家臣の入田義実に対し、島津氏への忠節を取り次ぎ、粗略にしないことを伝え、近隣へ計策をめぐらし、加勢を求めました(史料1)。冒頭に「雖未申馴候、令啓候」とあるので、家久から入田氏に対して出された最初の書状だと思われます。これ以降、家久は、入田氏と島津氏の「取次」役を担うこととなります。「取次」とは、「両方の者の間にいて、物事を伝えること。また、その人。仲立ちをする人」(『日本国語大辞典』(小学館))で、戦国時代、大名同士の交渉、もしくは大名とまだ従属していない国衆とのやりとりは、この取次役を介して行われました。

翌年正月、鹿児島で開かれた談合を経て、鬪を引いた結果、肥後口と日向口の二方面から豊後へ侵攻することが決定し、衆盛(部隊編成)について話し合いが行なわれます。しかし、この頃、島津氏のもとに、関白・羽柴秀吉から、大友氏との和平を命じる直書が届き、義久は、ますます豊後攻めに慎重となります。義久は、翌2月になると予定されていた豊後出陣を延期し、さらに6月には、鬪を引き直し、豊後出陣の方針を転換して、筑紫方面への出陣を決定します。この決定は、同月16日には家久ら日向衆にも伝えられました。すでに入田氏に対して、豊後攻めを約束していた家久は、豊後攻めが延期になったことを謝罪する書状(史料2)を認めることになったのです。

【参考文献・史料】

新名一仁 『島津四兄弟の九州統一戦』

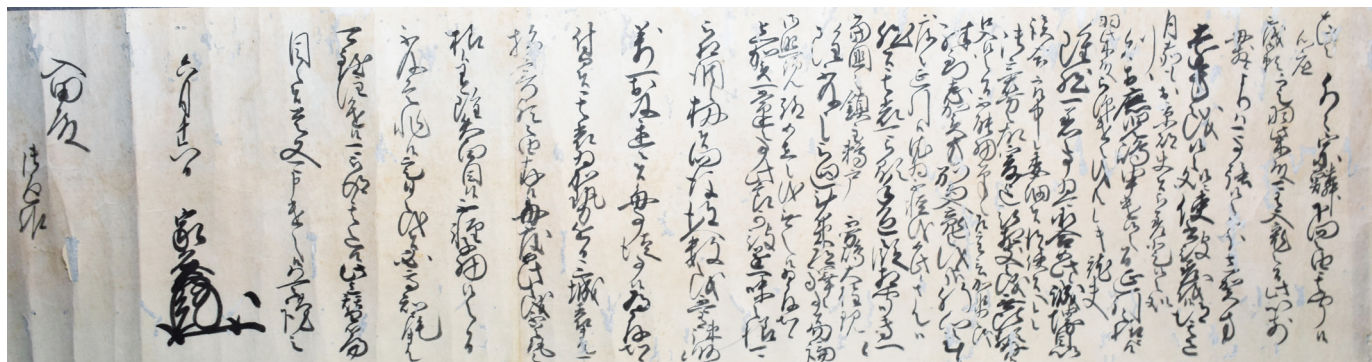
(星海社、2017年)

丸島和洋 『戦国大名の「外交」』 (講談社、2013年)

東京大学史料編纂所編

『大日本古記録 上井覚兼日記』(岩波書店)

(学芸専門員 吉村 晃一)



令和2年3月完成へ向け カウントダウン 鶴丸城御楼門

平成27年から官民一体となって取り組んでいる鶴丸城御楼門の建設が、いよいよ完成間近となりました。完成すれば、高さ・幅約20mの日本最大の城門となる予定です。鹿児島(鶴丸)城跡に建つ当館とあわせての御来城お待ちしております。



黎明館の催し物(令和2年2月～4月)

■黎明館企画展 3階企画展示室[常設展示入館料]

「あの人の家族への手紙 幕末維新」

1月28日(火)～5月10日(日)

※ 詳しくは1～3ページをご覧ください。

■講演会 2階講堂

「戊辰戦争と薩摩藩

—「薩藩戊辰戦役戦闘史料稿本」を題材に—

講師 東京大学史料編纂所教授 保谷 徹 氏

2月22日(土) 13:30～15:00

■学芸講座 3階講座室 [無料・申込不要]

「あの人の家族への手紙 幕末維新」

黎明館 学芸専門員 崎山 健文

2月15日(土) 13:30～15:00

「鳥羽の戦いと薩摩藩の砲兵

—ジオラマ製作から分かったこと—

黎明館 主任学芸専門員兼企画資料係長 吉井 秀一郎

3月1日(日) 13:30～15:00

「幕末薩摩を支えた家老たち

—桂久武と島津広兼を中心に—

黎明館 学芸専門員 市村 哲二

3月14日(土) 13:30～15:00

■楽しい体験講座 3階体験学習室 定員20名(要事前申込み)

「和装本づくりに挑戦しよう」

和綴じのノートをつくります。

2月16日(日) 13:00～15:30

講師 黎明館職員

対象 小学4年生～一般

材料費 1人200円

申込み 1月16日(木)～2月7日(金) (9:00～18:00)

電話 099-222-5404(学芸課)

■ウィークリー・ミュージアムガイド

講師 黎明館展示解説員

毎週日曜日 11:00～12:00

[常設展示団体入館料・申込不要]

◎10:55までに1階常設展示入口前にお越しください。

1名様から御参加いただけます。

期 間	各種団体主催の催し物	会 場 特別展示室	観覧料	お問い合わせ先(敬称略)
1/31(金)～2/2(日)	第72回 県書道展 一般・高齢者の部	第1・2・3	無料	鹿児島県書道会 099(225)2121
2/8(土)～2/9(日)	令和元年度「MBC学園文化祭」	第1	無料	株式会社南日本放送MBC学園 099(225)0251
2/11(火)～2/16(日)	赤塚展	第1	無料	赤塚学園美容・デザイン専門学校デザイン科 099(813)0033
2/18(火)～2/24(月)	鹿児島純心女子短期大学デザイン表現コース卒業制作展2020	第3	無料	鹿児島純心女子短期大学デザイン表現コース 099(253)2677
2/19(水)～2/23(日)	第58回鹿光展・第1回アンデパンダン展	第1	無料	東光会鹿児島支部・鹿光会 0993(73)1108
2/26(金)～3/1(日)	鹿児島大学教育学部美術科卒業修了制作展	第1	無料	鹿児島大学教育学部美術科 080(8397)2955
2/28(金)～3/1(日)	鹿児島国際大学学友会書道部展	第3	無料	鹿児島国際大学学友会書道部 080(8954)4622
3/4(水)～3/8(日)	鹿児島大学学友会書道部展・OB(桜美)展	第3	無料	鹿児島大学学友会書道部 080(5284)6446
3/7(土)～3/15(日)	第104回 二科展巡回鹿児島展	第1・2	有料	二科鹿児島支部 前田芳和 0995(65)7621
3/19(木)～3/29(日)	第38回 鹿児島水彩展	第1	無料	鹿児島県水彩協会 099(225)7211
3/19(木)～4/12(日)	写真展 オードリー・ヘプバーン	第2	有料	南日本新聞社 099(813)5052
4/9(木)～4/12(日)	第25回 霧聚書展	第1	無料	書道研究会霧聚 099(243)3145
4/17(金)～4/19(日)	黒田街子鹿児島キルト教室作品展	第2	有料	パッチワークキルト鹿児島教室 090(7392)0586
4/21(火)～4/26(日)	キヤノンフォトクラブ鹿児島写真展	第3	無料	キヤノンフォトクラブ鹿児島 吉名康展 090(5085)8507
4/25(土)～5/6(水)	トリックアート IN KAGOSHIMA 2020	第2	有料	K T S鹿児島テレビ企画事業部 099(285)8966
4/28(火)～5/6(水)	第10回 鹿児島白日会展	第1	有料	白日会南九州支部 池川直 090(1873)4553
5/1(金)～5/5(火)	鹿児島モデラースコンベンション2020	第3	無料	鹿児島モデラースコンベンション2020実行委員会 鉾之原和久 090(1167)5434

※掲載内容は1月20日現在のものです。催し物の日程等は変更になる場合もございます。

■休館日(令和2年2月～4月)

2/3. 10. 17. 25

3/2. 9. 16. 23. 25. 30

4/6. 13. 20

※月曜日(祝日の時は翌日)、毎月25日(土日の時は開館)

■4月25日から5月10日までの間は、開館しています。

■常設展示入館料

	個人	団体
一般	400円	300円
高校・大学生	250円	150円
小・中学生	150円	80円

※障害者無料 ※団体は20名以上

※鹿児島県内に居住する70歳以上無料(令和3年3月31日まで)

※鹿児島県内に居住する18歳以下の方は、土日祝日は無料(〃)

黎明

Vol.37, No.4
(通算146号)

発行年月日 令和2年2月1日

編集・発行 鹿児島県歴史資料センター黎明館

所在地 〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号

Tel(099)222-5100(代表) Fax(099)222-5143

ホームページアドレス <http://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/>

メールアドレス reimei@pref.kagoshima.lg.jp